

令和6年10月22日

報道機関各位

熊本大学

第39回熊本大学附属図書館貴重資料展

「小楠に届いた手紙—横井小楠文書にみる幕末群像—」について

熊本大学では、附属図書館と永青文庫研究センターの共催で、附属図書館に所蔵している古文書を展示公開する貴重資料展を毎年開催しています。今年の貴重資料展は「小楠に届いた手紙—横井小楠文書にみる幕末群像—」をテーマとして開催します。

令和5年1月に、幕末維新期を代表する儒学者・政治家である横井小楠のご子孫の赤松秋雄様が「横井小楠文書」を本学に寄贈され、赤松氏には令和6年1月に紺綬褒章が授与されました。これを記念し、今年の貴重資料展は横井小楠にスポットをあて、このたび寄贈された古文書の一部を使用して開催します。

2日目(11/3(日・祝日))は、テーマに関連した公開講演会/第18回永青文庫セミナーも開催しますので、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材をよろしくお願いいたします。

記

<貴重資料展>

【テーマ】「小楠に届いた手紙—横井小楠文書にみる幕末群像—」

【期間】令和6年11月2日(土)～11月4日(月) 10:00-17:00

<3日間限定>

<同時開催：公開講演会/第18回永青文庫セミナー>

【演題①】「横井小楠の人脈と思想形成過程」

【講師】今村直樹 (熊本大学永青文庫研究センター 准教授)

【演題②】「『他の非をのみ唱え我が修行怠り候は士君子の恥すべき事なり』—父としての横井小楠—」

【講師】三澤 純 (熊本大学大学院人文科学研究部(文学系) 教授)

【日時】令和6年11月3日(日・祝) 14:00～15:30

【定員】先着130名<予約不要>

* 公開講演会/第18回永青文庫セミナーは、後日、附属図書館ウェブサイトへ動画を掲載予定です。

-----以下、貴重資料展・講演会/セミナー共通-----

【会 場】熊本大学ひご未来図書館（中央館）1階（熊本市中央区黒髪2丁目40番1号）

【対 象】一般市民（興味があるかたはどなたでも）

【参加費】無料 事前申込の必要はありません。

【駐車場】紫熊祭期間中につき、車両入構はできません。公共交通機関をご利用ください。

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/6388>



【問い合わせ先】

熊本大学附属図書館 担当：森下

TEL：096-342-2212

第39回熊本大学附属図書館貴重資料展

小楠に届いた手紙

「横井小楠文書にみる幕末群像」

期間 令和6年11月2日(土)～4日(月) 10時～17時

会場 熊本大学ひご未来図書館(中央館) 1階

同時開催

公開講演会・第18回永青文庫セミナー

演題① 横井小楠の人脈と思想形成過程

講師 今村直樹 (熊本大学永青文庫研究センター准教授)

演題② 他の非をのみ唱え我が修行怠り候は

土君子の恥ずべき事なり

―父としての横井小楠―

講師 三澤 純 (熊本大学大学院人文社会科学部(文学系)教授)

日時 令和6年11月3日(日・祝) 14時～15時30分

会場 熊本大学ひご未来図書館(中央館) 1階

※聴講無料(定員130名)当日先着順

入場・聴講 無料



横井小楠像

出典:国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

櫻樹之去待十字
孰能各原在悟去
之旨忽被勤王志傳
後之亦是之人
長島高徳

松平春嶽から横井小楠に送られた「児島高徳肖像画」の画賛

共催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター
協力 公益財団法人永青文庫
後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社
NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB

熊本大学は、株式会社肥後銀行とネーミングライツ事業契約を締結し、附属図書館中央館の愛称を「ひご未来図書館」としています。



貴重資料展は熊本大学キャンパスミュージアムの一環で実施しています

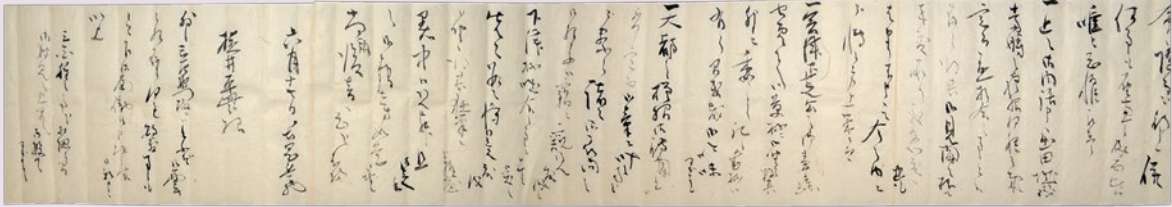
小楠に届いた手紙－横井小楠文書にみる幕末群像－

2023年1月、横井小楠のご子孫・赤松秋雄氏が、「横井小楠文書」を本学に寄贈された。これにより、「横井小楠文書」の大部分が本学に収蔵され、研究者の閲覧に供されることになった。これに伴い、赤松氏には、2024年1月、紺綬褒章が授与された。本資料展は、これを記念して開催するものである。

「横井小楠文書」の特徴の一つは、肥後実学党の同志であった米田是容(長岡監物、熊本藩家老)や立花壱岐(柳川藩家老)をはじめ、森有礼(薩摩藩出身で、初代文部大臣)、福岡孝弟(土佐藩出身で、明治新政府では「五箇条の誓文」の作成に関わった人物)等、幕末の著名人が横井宛に送った書簡が多数含まれている点にある。また日本最初の「官費留学生」として知られる、横井小楠の甥の左平太・大平兄弟が、アメリカから送った書簡も多く存在する。

本資料展では、こうした「来簡」に注目することで、横井小楠が形成した壮大な人脈の一端を明らかにしてみたい。

江戸の小楠の禁酒を祈る熊本の米田是容



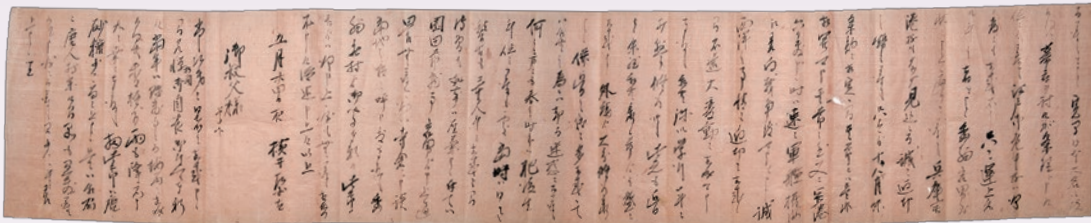
(前略)

「横井小楠宛米田是容(長岡監物)書簡」

天保10年[1839]6月17日付、横井小楠文書A29

江戸遊学中の小楠(数え年で31歳)に、盟友である熊本の米田是容(同27歳)が送った書簡。小楠は4月16日に江戸に着き、米田宛に書簡を送っていた。本史料はその返信にあたるが、高名な儒学者である佐藤一斎や松崎慊堂、水戸藩の藤田東湖等との面会の様子を尋ね、江戸の小楠を羨ましがっている。また、冗談交じりに小楠の酒癖を心配し、「愈以(酒の一引用者註)厳禁を祈申候」としている。若い両者の親密さが伝わる書簡であるが、この約半年後、小楠は東湖との忘年会で飲みすぎ、その帰りに御家人相良由七郎を殴るという事件を起こすこととなる。

他藩から長崎に来た修行生のことを、小楠に「迷惑」と書き送った横井左平太の書簡



(前略)

「横井小楠宛横井左平太書簡」

慶応元年[1865]5月24日付、横井小楠文書A129

長崎で英語習得のための勉強に励んでいた横井左平太(小楠の甥、数え年で21歳)は、他藩からの研修生が増えてきた現状について、「私共之為ニハ却而迷惑」と書き送った。この書簡を受け取った小楠は、6月15日付の返信で、「他の非をのみ唱へ、我が修行怠り候は士君子の恥ずべき事也」と厳しく叱責している。左平太の実父が亡くなった後は、小楠が養父となっており、「父」としての面目躍如といったところである。この他にも、イギリス人「ダウダ」から聞いたことや、偶然手に入った「唐砂糖」を贈ること等、この書簡には興味深いことがたくさん書かれている。

横井小楠文書とは

旧熊本藩士横井家に伝来した古文書・古記録類(総数407点)。幕末維新期を代表する儒学者・政治家である横井小楠が、横井家当主であった時期に作成・集積されたものが大半を占める。

アクセス



熊本大学ひご未来図書館 〈中央館〉



◎熊本桜町バスターミナル

(旧称:熊本交通センター)から(16番のりば)

- 産交バス: 楠団地、光の森産交行等(子飼橋経由)
- 熊本電鉄バス: 光の森駅行 「熊本大学前」下車 徒歩3分

※公共の交通機関をご利用ください。



熊本大学附属図書館公認キャラクター「くまぼん」



附属図書館支援事業 ～熊本大学基金へのご寄附のお願い～

皆様からの寄附は、図書館を通じての学生サービスや社会貢献を十全かつ迅速に行うための事業に活用させていただきます。みなさまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【熊本大学基金】附属図書館支援事業 <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/donation>



問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1
096-342-2212

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>